

# 従属節の stripping とその類似現象について

佐藤元樹

## 1. はじめに

ストリッピング (stripping) は、単一の句だけを残して、他の一切を省略する言語現象として知られている。ストリッピングによる節省略はどのような節にも適用できるわけではなく、90年代までは、等位構造のみを対象とするものと考えられていた。しかし、近年になって、ストリッピングは、従属節であっても、ある統語環境のもとでは適用可能であることが明らかになってきている。

- (1) a. Jane loves to study rocks, and geography too.
- b. \* Jane loves to study rocks, and John says that geography too. (Lobeck 1995: 27)
- c. Jane loves to study rocks, and John says (\*that) geography too. (Wurmbrand 2017: 344)

Wurmbrand (2017)は、(1c)の例にもとづいて、補文標識がない場合にはストリッピングが適用できるようになると主張している。しかし、従属節内のストリッピングの可否は、単純に補文標識の有無で決定されるわけではない。例えば、以下の斜字体部が示すように、補文標識が頭在的である場合にもストリッピングが起こり得る。

- (2) if-stripping (Myers and Yoshida 2018)  
John likes to drink whiskey. *If scotch*, I'll pour him an Islay.
- (3) although-stripping (Merchant 2003, Park and Kim 2023)  
Abby speaks passable Dutch, *(al)though not Ben*.
- (4) before/after-stripping (Larson 1987, Overfelt 2018)  
Ann left *before/after Phil*.

本稿では、上記の例に加え、新たに譲歩の *whether* 節においてもストリッピングが起こることを示し、ストリッピングが副詞節をも対象とした省略現象であることを論じる。

## 2. whether-stripping

譲歩の *whether* 節では、以下に示すように、whether A or not/A or B の形式をした省略文が許される。以降、そのような省略文を *whether-stripping* と呼ぶ。

- (5) a. Whether (he is) chairman or not, he deserves to be criticized. (ジーニアス英和辞典)
- b. Whether (he is) sick or well, he is always cheerful. (ウィズダム英和辞典)

学習英和辞典では、(5)の省略形は副詞節一般に見られる主語と *be* 動詞の欠如として解説されている。学習辞典等で取り上げられる代表な例では、*be* 動詞の補語となる名詞や形容詞が残存要素 (remnant) となっているため、ストリッピングではなく、主語と *be* 動詞の欠如という別な省略があるように思われるかもしれない。しかし、*whether-stripping* は、繫辞文に特有の省略現象ではない。本節では、*whether-stripping* が繫辞文に限定されない節省略であることを示す。

*whether-stripping* が節省略であることを示す第一の根拠は、残存要素の範疇である。例えば、副詞は繫辞文の軸語には生起することができない範疇であるが、*whether* 節では、次のように残存要素となることがある。

- (6) a. \* Whether it was intentionally or not, she had deeply offended him.
- b. Whether intentionally or not, she had deeply offended him. (adapted from Huddleston and Pullum 2002: 764)

統語的には、(6b)が非文法的な(6a)の繫辞文から派生されたと分析することは妥当ではない。そうではなく、(6b)は、以下のような文法的な文から派生されたと分析する方が自然である。

- (7) Whether she did it intentionally or not, she had deeply offended him.

このように、副詞が従属節を単独で構成している場合、その内部構造が主語と *be* 動詞の欠如ではなく、繫辞文以外の節が省略されていると考えられる。

また、*whether-stripping* に繫辞文以外の統語的内部構造があることは、束縛条件の連結性効果 (connectivity effects) から証左が得られる。例えば、照応表現の一種である再帰代名詞は同一節内に先行詞を必要とする表現であるが、*whether-stripping* では以下のような対比が見られる。

- (8) a. John<sub>1</sub> was selling some pictures. Whether of *himself*<sub>i</sub> or not, his mother will be upset.  
 b. His<sub>1</sub> sister was selling some pictures. \*Whether of *himself*<sub>i</sub> or not, his mother will be upset.

(8a)では、譲歩の *whether* 節内に再帰代名詞の先行詞がないにも関わらず、適格な文となっている。一方、全く同じ形をした(8b)は不適格である。この対比は、*whether* 節内に以下のような完全な文を仮定することによって統語的な説明が与えられる。ここで、グレーの文字は省略されている箇所を示している。

- (9) a. ... Whether he<sub>1</sub> was selling some pictures of *himself*<sub>i</sub> or not, his mother will be upset.  
 b. ... \*Whether his<sub>1</sub> sister was selling some pictures of *himself*<sub>i</sub> or not, his mother will be upset.

(9)の省略箇所では、再帰代名詞の先行詞に相当する言語表現が同一節内に存在している。(9a)では、先行詞である *he* が *himself* を c 統御しており、束縛条件 A を満たしている。一方、(9b)では、その先行詞にあたる *his sister* の *his* が *himself* を c 統御しておらず、束縛条件 A を満たしていない。この束縛条件 A の満たし方により、(8)の文法性の対比が説明される。

同様の連結性効果は、束縛条件 C においても観察される。再帰代名詞の代わりに指示表現である *John* を用いた例を見てみよう。

- (10) a. He<sub>1</sub> was selling some pictures. \*Whether of *John*<sub>1</sub> or not, his mother will be upset.  
 b. His<sub>1</sub> sister was selling some pictures. Whether of *John*<sub>1</sub> or not, his mother will be upset.

(10)の例は、それぞれ(8)の例と反対の文法性を示している。これらの例もまた *whether* 節内に、以下の構造を仮定することによって説明される。

- (11) a. ... \*Whether he<sub>1</sub> was selling some pictures of *John*<sub>1</sub> or not, his mother will be upset.  
 b. ... Whether his<sub>1</sub> sister was selling some pictures of *John*<sub>1</sub> or not, his mother will be upset.

(11a)では、*John* が主語である *he* に c 統御されており、束縛条件 C によって、*John* と *he* を同一指示とすることができない。一方、(11b)では、*John* が *his sister* の *his* に c 統御されていない。そのため、*John* と *his* は同一指示をもつことができる。このように、連結性効果は *whether-stripping* に統語的内部構造が存在していることを示しており、節省略を示す証拠である。

### 3. おわりに

本稿では、新たに譲歩の *whether* 節においてもストリッピングが起こることを示した。副詞節では一般に、主語と *be* 動詞の脱落があることが知られているが、*whether-stripping* はそのような繫辞文に限定されない節省略であることが明らかとなった。本稿では、ストリッピングが従属節でも適用可能である経験的事実を示したが、その統語派生は未解明のままである。Merchant (2004)で提案されている焦点移動と削除による統語分析が従属節のストリッピングに有効であるかどうかは、今後の研究課題としたい。

### 参考文献

- Huddleston, Rodney and Geoffrey Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English language*, Cambridge University Press, Cambridge.  
 Larson, Richard K. (1987) “‘Missing prepositions’ and the analysis of English free relative clauses,” *Linguistic Inquiry* 18: 239-266.  
 Lobeck, Ann (1995) *Ellipsis: Functional heads, licensing and identification*, Oxford University Press, Oxford.  
 Merchant, Jason (2003) “Remarks on stripping,” Ms., University of Chicago.  
 Merchant, Jason (2004) “Fragments and Ellipsis,” *Linguistics and Philosophy* 27: 661-738.  
 Myers, Ethan and Masaya Yoshida (2018) “What can if-stripping tell us about ellipsis?” Paper presented at the 49th Annual Meeting of North East Linguistics Society. Ithaca, NY: Cornell University. October 5-7.  
 Overfelt, Jason (2021) “Stripping and VP-Ellipsis in reduced temporal adverbs,” *Syntax* 24: 462-509.  
 Park, Seulkee and Jong-Bok Kim (2023) “A discourse-based approach to concessive *although*-stripping in English,” *Proceedings of the Linguistic Society of America* 8: 5453.  
 Wurmbrand, Susi (2017) “Stripping and topless complements,” *Linguistic Inquiry* 48: 341-366.

### 辞典

- 『ジーニアス英和辞典』第6版，大修館書店，2022。  
 『ウィズダム英和辞典』第4版，三省堂，2019。